

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサークル水戸（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 17日		2026年 1月 16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	52	(回答者数) 39
○従業者評価実施期間	2025年 12月 22日		2026年 1月 23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 23日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	日頃から児童の状況を保護者と共有することで、児童の健康状態や発達の様子について、保護者と共通理解を図ることができている。	送迎時の引き渡しの際や連絡ツールを通じて、児童の様子や変化について保護者へ丁寧に伝えている。	保護者との関係をより強化し、保護者の悩みやニーズなどを確認していき、児童の支援へと繋げていく。
2	こどもや保護者のニーズ、課題等を管理者および児童発達支援管理責任者を中心に、スタッフ全員で共有したうえで個別支援計画を作成し、それに基づいた支援を行っている。	児童の発達や特性に応じた個別の課題について、支援方法を職員間で検討・共有し、共通理解のもと支援を実施している。	職員間の情報共有をより密に行い、児童の小さな変化も見逃さない支援体制の構築を進めていく。
3	生活空間をこどもにとって分かりやすく構造化された環境とし、こどもの特性に配慮した情報伝達を行っている。	こどもの特性に合わせて、音声だけでなく文字やイラスト等も活用し、理解しやすい伝達方法を取り入れている。	事業所で行っている支援内容やその成果について、保護者とより密に情報共有し、さらなる支援の充実につなげていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所、認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の他のこどもと活動する機会が少ない。	地域や他のこどもと関わることを意図した企画が少なく、事業所内で完結する活動が多いため。	地域のイベントへ積極的に参加するとともに、地域を巻き込んだ活動を企画・周知し、交流の機会を増やしていく必要がある。
2	保護者に対して、定期的な面談や子育てに関する助言等の支援を行う機会が少ない。	定期的な相談を行える場の設定や、保護者への周知・案内が十分でないため。	保護者会等の機会を有効活用し、面談や相談の機会を定着させていく。また、保護者の相談に適切に対応できるよう、職員一人ひとりの専門性の向上を図っていく。
3	定期的に避難訓練等、こどもの安全確保に関する取組を行っているが、その内容がすべての保護者に十分に周知されていない状況がある。	契約時の説明内容の不足や、実施している取組についての情報発信の内容・方法が不十分であるため。	事業所で行っている安全確保に関する取組について、ブログ等を活用して保護者へ積極的に情報発信を行う。また、より一層こどもの安全が確保できる取組についても継続的に検討していく。